



## 多文化共生の

## 地域づくり

### 多文化共生ってなんだろう

みなさんは、「多文化共生」という言葉をご存知ですか？

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていこうとする考え方です。

日本は、今、人口減少が進み、少子高齢社会を迎えています。また、経済のグローバル化により、人の国際移動が更に活発化しています。

外国人のみなさんを含めたすべての人が、地域や職場などのいろいろな場所で、能力を最大限に発揮できる社会づくりが求められています。

### 地域に住む外国人

現在、本市には12か国、約2000人の外国人のみなさんが、各地域で生活しています。就労や結婚などで定住している人、勉強や仕事のために一時的に滞在している人など、目的は様々です。



▲ 11月に行われた国際交流会の様子

しかし、地域や職場などにおいては、日本語によるコミュニケーションが難しい場合もあります。また、文化や習慣のちがいが、日本の制度やルールの壁から、地域から孤立したり、誤解を招いたりするケースが生じるなど、外国人の努力だけでは難しい面もあります。

一方で、日本人の側にも、外国人が起こした一つの事件をきっかけに、すべての外国人に対して偏った見方をする人も少なくありません。

この問題は、外国人、日本人の双方が、相手の気持ちを考え、理解し合おうとするコミュニケーション不足や歴史的問題、言語・宗教・習慣・文化などのちがいとあいまって、外国人に対する偏見や差別意識の存在が影響していると思われる。

### 互いを認めあう地域づくり

市では、問題の解決に向けて、多様性を認めあう人権意識を育てる教育・啓発活動を進めています。

市からの情報が、市内で生活する外国人のみなさんにも円滑に伝わるよう、多言語による情報提供を行っています。また、竹原市国際交流協会では、地域で生活する外国人のみなさんとの交流を通じて、それぞれの国の文化や慣習を学び、お互いの理解を深めるため、世界各国の料理を紹介し、参加者と一緒に試食する「竹原国際料理教室」などを実施しています。

「住みやすいまち」とは、民族や国籍が異なっているけれども、同じ地域、時代を共に生きる仲間として互いに認めあいながら生活できる「まち」なのではないでしょうか。

### 男女共同参画ってなあに？

「たけはら男女共同参画社会づくり講座」は、「参加型人権教育の場」です。

私たち一人ひとりの意識の中に長年すり込まれた、「女だから、男だから、母親だから、父親だから、こうあるべき」などといった固定観念は、時に性別による差別を生むと気づかされます。

今年度も、「ともに輝くあした創り」をテーマに、講座を開講します。みなさんも、大切な「人権」について、学んでみませんか？

#### 問い合わせ

たけはら男女共同参画社会づくり実行委員会（人権推進室内）  
☎ 22-7736



### 広がる人権の花

11月、市内の小学1年生を対象に、命の大切さや思いやりを学んでもらおうと、人権擁護委員と法務局職員が「人権の花」（ヒヤシンス）の配布や紙芝居などを行いました。

みなさんは、生活の中で、人を思いやることができていますか。

